

シェービングの基礎知識

シェービングは、対皮角度や斜行運行、無理のない円運行を行うための位置や姿勢など、さまざまな理論や知識の積み重ねで成り立っている技術です。

これらを理解すると、シェービングの運行一つひとつで、どこに注意すべきかが自分でわかるようになります。しっかり確認して、自分の技術で実践できているかを確認してください。

1. レザーの運行

- ・顔の表面は球面状であるため、レザーが平均に安定して接触するには人体自然の円運行が必要。
 - ・斜行運行をすることで、レザーの切れ味が高まり、皮膚への抵抗を抑えられる。
- そのため、レザーの運行は直線ではなく円弧状に、斜行運行するのが原則です。

i) 関節を軸とした円運行

レザーの運行は、それぞれの部位に対して、各関節を軸とした操作で行います。ヒジを軸とした円は大きいため長いストロークに適しており、範囲が小さくなるにつれて、手首、指関節を使用します。関節は、剃る場所によっては単独で使うのではなく、合わせて利用することで立体的に運行することができます。

ii) 斜行運行

レザーは毛流に沿って運行します。また斜行することで、切れ味が増し、皮膚へのダメージも少なくなります。

iii) 対皮角度

対皮角度は45度を限度とし、対象によってその角度を調節します。調整の考え方は次の2点が基本です。

- ①「毛が硬い」「毛量が多い」など、抵抗が大きい場合は、皮膚を傷つけやすいため、対皮角度を小さくします。
- ②軟毛のように毛の抵抗が小さい場合は対皮角度を大きくし、刃先に力を持たせます。

iv) 運行速度

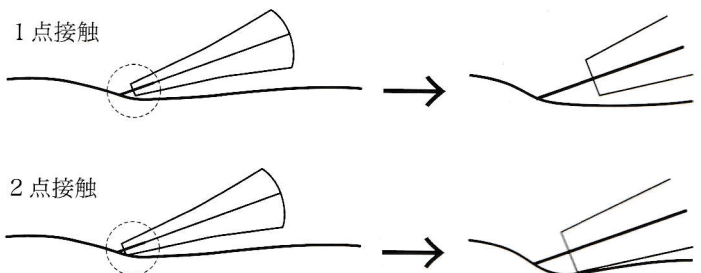
息を吐きながら呼気による運行でゆっくり行いましょう。またお客さまの吐く息に合わせて行くと、より気持ちの良い技術となります。

2. 替え刃式レザーの場合

替え刃には、ホルダーからの刃の出幅が少ないタイプや刃が厚いタイプなどあり、用途に応じて使い分けます。ホルダーは分解して消毒しやすいものが普及していますが、替え刃をホルダーで固定する構造であるため、隙間に汚れが蓄積したり、菌の繁殖の原因になりやすく、レザーとは違うことを認識し、消毒に留意する必要があります。

また、替え刃式レザーの刃線は直線刃でコンケブなどがなく、切削抵抗が刀身に吸収されにくく、目に見えない傷や出血を招きやすい点に注意しましょう。

ツーポイントアングルシェービング



1点接触と2点接触の構造です。2点接触にすることにより、皮膚に加わる圧力が切れ刃の部分だけではなく、ホルダーにも分散され、対比圧力が低くなることで皮膚の損傷を防ぐことができます。

i) 操作の留意点

替え刃は切れ刃が鋭利で直線的なため、レーザーと同様に扱っていると皮膚を傷つける恐れがあることから、対皮圧力を軽くするように注意する必要があります。右肩を上げて前腕の力を抜き、楽な運動にすればやわらかい自然な操作ができ、対皮圧力を軽くすることができます。これはレーザーを使用した場合にも言えることです。

対皮角度は45度が良いとされますが、実際に45度を保つには相当寝かせて操作しなければなりません。

ii) 替え刃の形状

替え刃の刃角の多くは20～23度で、刃先には防錆作用、刃先潤滑性、刃先耐久性の向上を考え、プラチナクロム、樹脂、防錆オイルなどのコーティングがされています。

iii) 添え手

添え手は「シェービングは添え手で行え」といわれるくらい重要な技術です。皮膚の弾力性を利用して剃毛部位を剃りやすいところに移動させる、皮膚と毛の密集状態を拡散させる、寝ている毛を起こすなどの働きをしてレーザーが容易に運行できるようにします。添え手は軽く、強く張らないように注意しましょう。

3. 道具類

シェービングは、お肌に直接触れる慎重を要する技術であるため、手技の内容だけでなく使用する粧材や道具の使用感も施術後の印象を大きく左右します。ここでは道具について簡単に解説します。

1. タオル

i) 乾燥タオル

乾燥タオルの素材は、細い糸でパイルの長いものが、軟らかくて気持ち良さがあります。パイルの短いものは、耐久性はありますが触感があまり良くありません。

参考・90×35cm程度、80g/本。

ii) スチームタオル

スチームタオルは、蒸す効果と快感性を考慮し、ボリュームがあり、温度が冷めにくいものがシェービングに適します。乾燥タオルよりは太い糸でパイルが長いもの、長さや厚さも必要です。



パイルが長く触感のいいタオルを、本数も贅沢に使うと技術に高級感も生まれます。

2. シェービングブラシ

ラザリングは、シェービングの結果の良し悪しを左右するとも言えます。ひげを剃りやすい状態にするためには、当然ラザリングの技術が重要です。

そして、技術を効果的なものにするには、シェービングブラシの品質も大切で、太さや毛の本数、材質など、ただ泡を塗布するのではない、ラザリングの目的を意識した道具選びが重要です。

ブラシの材質は、一般的な豚毛に比べると穴熊の毛を使用したものが高機能で肌触りが良いとされており、穴熊の毛は、繊維が多いため水分を多く含むことができます。また、サイズの大きなものは、泡立ちも良くひげを柔軟させる効果に優れています。



道具の使用感や消毒効果の確保とともに、見た目の高級感などにもこだわる演出も重要です。

シェービング技術

シェービングは、お客さまの顔を中心として、手が自由かつ正確に動かせる位置に身体を置き、上体は施術部位に正対して、技術者の身体を中心で行うことが重要です。

これは理容師養成校で学ぶ基礎知識ですが、各工程でポイントとなることの多くは、施術部位と正対するための方法といっても過言ではありません。位置、姿勢をこまめに動かさなくてもできるのも事実ですが、正対することで技術の安定性、しっかりした円運動などが確保され、ワンランク上の上質なシェービングにつながっていきますので強く意識してください。

1. 事前準備

襟を外側に折り返し、シェービングクロスとタオルをかけます。今回はシェービングと合わせて、デコルテまでのフェイシャルマッサージを行いますので、首周りをしっかり空け、汚れないようにタオルを2枚でガードします。寝かせてタオルでキャップしたらセットイング終了です。



襟にシワを付けないように、襟芯を真っすぐに折り返します。

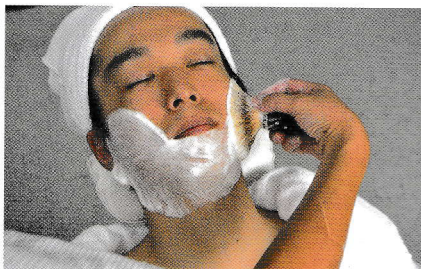


首周りも布の偏りがあると寝心地が悪いので注意しましょう。タオルを2本贅沢に使います。

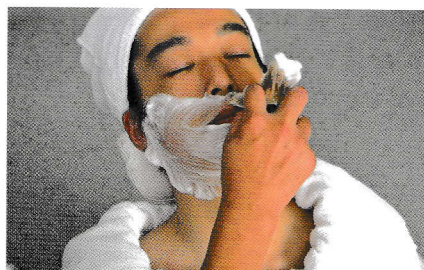
2. シェービング

i) ラザーリングとスチーミング

1回目のラザーリングの目的は肌の汚れを取ることにあるため、肌の上で泡立てるようにブラシを操作します。シェービングブラシは常に肌に直角に小さな回転運動をし、押さえすぎたり、浮かせすぎることなく、適度な圧であてるようにします。



ブラシが直角にあたるようにヒジの位置をコントロール。毛先が跳ね返らない、密着する力加減で。



鼻の下など細かい部分はブラシの中央を食指で押さえして扇状にし、左右から塗布します。

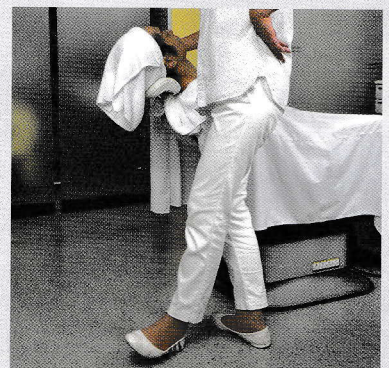
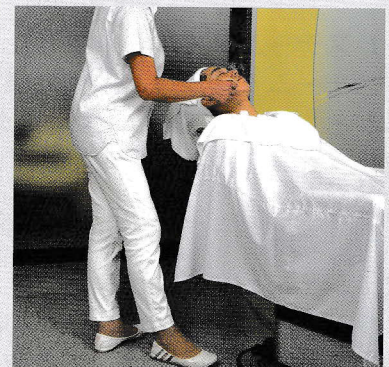
前腕内側でスチームタオルの温度調節をした後、てん包・清拭し、同じ運行で2回目のラザーリングを行います。2回目はスムーズなシェービングのために泡を塗布するのが目的です。



てん包、密着、清拭を行います。このときは耳部と側頸部は拭きとりません。

技術のポイント

部位に直角がポイントです。かかとを180度回転させ、腰をしっかりひねってお顔の反対側にも直角にブラシが当たるように、ヒジの位置をコントロールします。

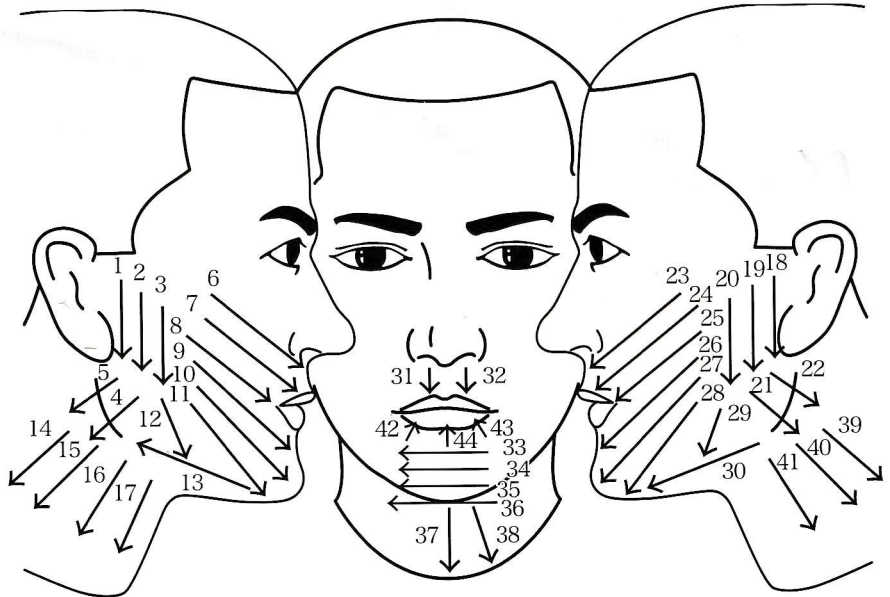


ii) ワンシェービング

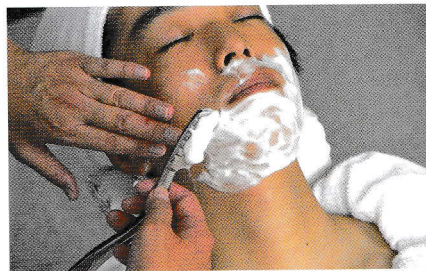
お客さまの顔を中心として、手が自由かつ正確に動かせる位置に身体を置き、上体は施術部位に正対して、技術者の中心で行います。運行順と立ち居地、持ち方は下記の通りです。

【レーザーの持ち方と技術位置】

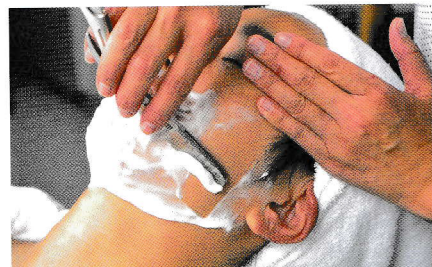
- ・1～5 フリーハンド 右側
- ・6～12 バックハンド 右側
- ・13～17 フリーハンド 右側
- ・18～22 プッシュハンド 左側
- ・23～38 フリーハンド 右側
- ・39～41 フリーハンド 左側
- ・42～44 フリーハンド 左側



フリーハンドです。ハンドルを45度を開き、刀腰部に母指尖をあて、示指、中指、薬指の第3関節の指腹を刀幹部下側に回しあて、小指は第2・3関節を自然に曲げて、第3関節の指背を刀尾とハンドルの側面にわたって乗せます。



バックハンドです。フリーハンドと同じ持ち方で、切れ刃を逆に返します。しっかりと右足重心をかけ、右肩を軽く上げて右腕を振り子状態にして、力を逃がすようにして運行すると、負担をかけることなく運行できます。

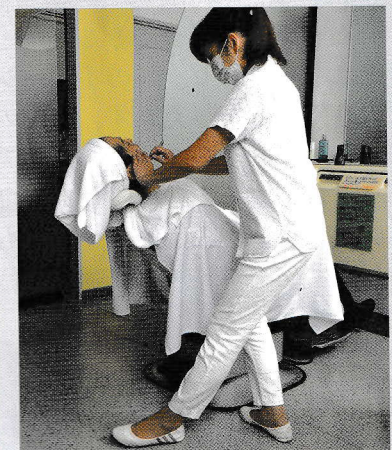


プッシュハンドです。フリーハンドの持ち方で、手関節だけを手背側へそらし、切れ刃を向こう側へむけます。技術者から刃先が見えづらいので、ストロークを長くせず、上体を反り気味にすることで力を逃がすのがポイントです。



ペンシルハンドです。刃尾がハンドルの内側からわずかに出る程度にレーザーを開いて、切れ刃を左に向け、筆を持つように刃首部を下げて持ちます。

姿勢・重心のポイント



レーザーを持つ右手が安定するように、常に右足に重心をかけて技術するように心がけます。



覗き込むような姿勢はNGです。

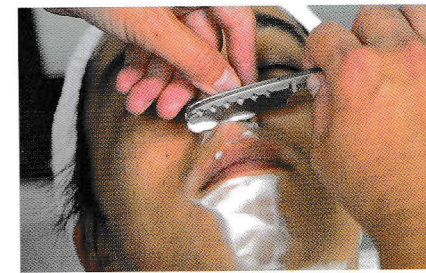


左足重心は安定しません。

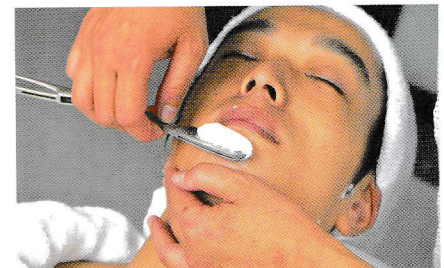
姿勢・重心のポイント



左頬部はしっかり添え手をして、ゆっくり小刻みにならないように運行します。



人中は狭いため刃先が見えにくいので、レーザーに集まっている泡は必ず取り除いてから運行します。



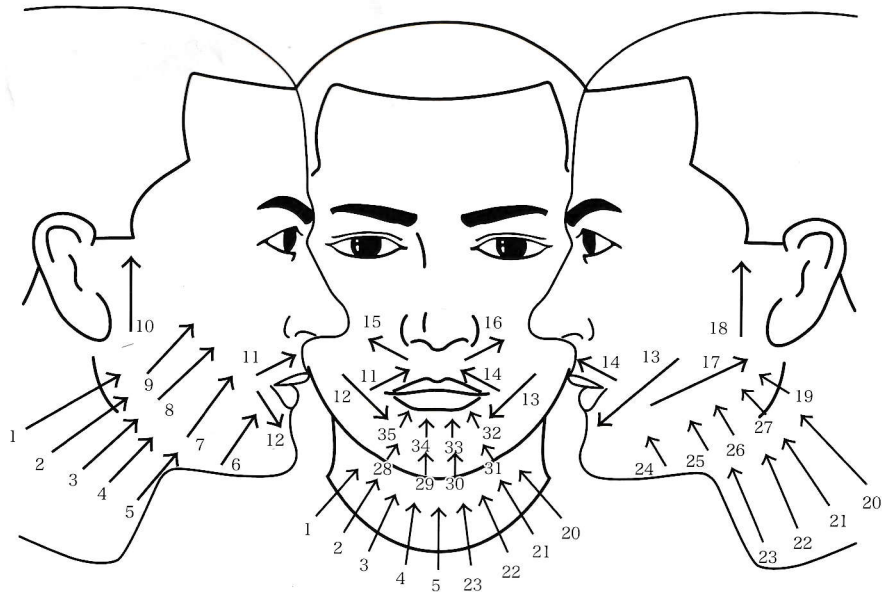
頬唇溝は下唇に気を付けて、人中同様に指関節を使って運行します。

iii) ツーシェービング

ツーシェービングは必須ではないので、お客さまに合わせて実施を判断します。バックハンドの運行が多くなるので、添え手をしっかりし、皮膚に十分弾力を持たせながら運行します。運行順と立ち居地、持ち方は下記の通りです。

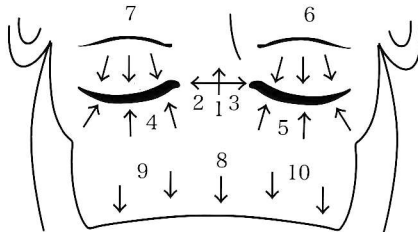
【レーザーの持ち方と技術位置】

- ・1～12 バックハンド 右側
- ・13～15 フリーハンド 右側
- ・16 プッシュハンド 右側
- ・17～19 フリーハンド 左側
- ・20～27 バックハンド 左側
- ・28～35 フリーハンド 左側



iv) 眉毛

男性も眉毛を形づくるのが一般的になっており、顔のイメージに大きく影響を与えます。眉毛のシェービングやスタイリングのアドバイスをするのは、サロンでのシェービングの価値の一つでもあります。



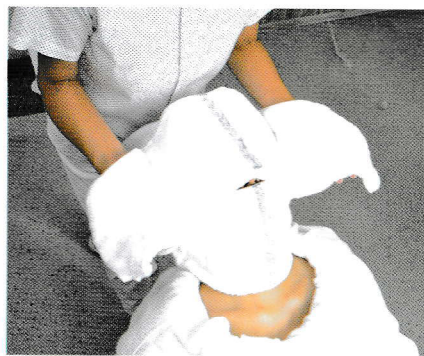
左右を比べて、上側は高い方から、下側は低い方から剃ります。眉下はきちんと逆剃りしましょう。

v) タオル清拭

スチームタオルで2回清拭します。1回目は従来の拭き取りで行い、2回目はタオルを2本重ねててん包します。

これはこの後に行うマッサージ効果を高めるためのスチーミングで、耳までしっかり包むようにてん包します。

※今回はデコルテまでオイルマッサージを行いますので、施術部位も清拭しました。



2回目はタオルを2本使います。1本目はタオルの中心がアゴ、2本目は額になるようにし、耳まで包むようにします。



額の圧迫後、額中央からコメカミまで両サイド、中指頭で軽く揉捻します。



タオルを1本はずし、目の上側を中から外に眼輪筋に沿ってつまむように刺激していきます。



アゴのラインをアゴ先から上側に向けてつまむように刺激し、清拭します。